

# 第41回 全国中学生人権作文コンテスト宮城県大会

## 仙台89ERS賞

## 「先生が教えてくれたこと」 石巻市立湊中学校 3年 岡本直さん

「黒人ってなんとなくこわい。」それが去年新しく来たALTの先生に対する私の第一印象でした。その先生はアフリカ出身で、肌の色が黒い所謂「黒人」でした。着任式で初めて先生を見たとき、そのとても高い身長と大きな目の目力に驚いたのを一年たった今でもよく覚えています。そしてその瞬間、私は先生を「こわい」と思ってしまったのです。

さっそく次の日から始まった先生の授業は英語で歌を歌うという内容でした。その歌はとても明るい曲で、先生はノリノリで歌っていましたが、中学二年生ということもありみんな周りを気にして恥ずかしそうにしていました。すると先生は私たちにむかって「shy shy,bye bye」と言いました。それも何度も。いつしかそれは先生の口癖となり、授業の度に恥ずかしさは捨てなさい、と先生の陽気さをまじえて英語で私たちに伝えました。そんな中、私は英語の暗唱大会に出場することになり夏休みから先生との練習が始まりました。その頃には私の中で先生に対する「こわい」というイメージはすっかりなくなっていました。

ある日、普段の練習場所とは違う部活動中の生徒が通るような場所で練習をしました。スピーチを始めていいと先生に言われましたが、私は通り過ぎる人の視線や自分が一所懸命演じているところを見られたくないという思いから、なかなか始めることができませんでした。人がいなくなるのを下をむいて待っていると「ナオ。」と呼ぶ声が聞こえて、顔をあげると先生が怒った様な表情で私を見ていました。その表情にびっくりしていると、先生は私に問いかけました。「なぜ恥ずかしがるの？」と。私はすぐに答えることができませんでした。今思えばそれは、単に英語でなんとと言えば良いかわからないという理由だけでなく、スピーチの練習は恥ずべきことではないことを自分でも分かっていたからのように思います。黙ったままの私を見かねて、先生はこう言いました。「ナオ。先生を見なさい。先生は“黒人”だ。だから今までいろんな思いをしてきた。外を歩くのも怖かった。自分を見られるのが恥ずかしかったし、狙われているんじゃないかと怯えていた。だって肌の色が黒いから。皆と違うから。でももう恥ずかしがるのはやめたんだ。自分はなにも悪いことをしていない、ただ肌の色が黒い“だけ”、皆と違う“だけ”、そう思って堂々としていることにしたんだ。恥ずかしい気持ちは分かる。でもナオは何か悪いことをしたの？」私が首を横に振ると、「なら恥ずかしがる必要はない。自信を持って堂々としなさい。」と、先生は笑顔で言いました。私は先生の話聞いてハッとしました。そして私が抱いた第一印象が思い浮かびました。ただ肌の色が違うだけで勝手に偏見で判断してしまった私はなんて最低なんだろう。罪悪感でいっぱいになりました。先生が授業でなぜあれほど私たちに「恥ずかしがるな」と言っていたのが今なら分かります。先生が話をしてくれた勇気に応え、私は人が通る中、堂々とスピーチを始めました。

そして数日たったある日、インターネットで黒人男性が白人警察官に射殺されたという記事を目にしました。読んでみるとその男性は悪いことはなにもしていませんでした。私は「外を歩くのも狙われているようで怖い」という先生の言葉を思い出しました。なぜ肌の色が違うだけで命を奪われなければならないのでしょうか。なぜなにもしていない人が怯えて生きなければならないのでしょうか。そう考えたとき、私は自分の持っていた小さな偏見が人の命を奪うことに繋がるかもしれないということを知り恐しく感じました。そして私の偏見がどれほど最低なことなのかを改めて思い知りました。

人間はみな平等で、みな尊い命です。だからこそ互いを認め合って、いつのまにか染みついた偏見をなくしていくことが大切だと思います。悲しいことに世界には、人種差別の他にもたくさんの差別があります。ジェンダー差別や障害者に対する差別、カーストによる差別など、挙げたらキリがないくらい。その一つ一つをなくしていくには、私たちの努力が必要です。自分の持っている偏見や固定概念と向き合い、果たしてそれは本当なのかと疑うことで少しずつ差別は世界からなくなっていくのではないのでしょうか。

先生から大事なことを学んだ今、私はこの世界から偏見や差別がなくなり誰もが安心して暮らせる社会、互いに認め合える社会になることを強く願っています。



株式会社仙台89ERS 代表取締役社長 志村雄彦

今回もまた人権作文を読ませていただきました。中学生の素直な疑問・気づきにはいつも「ハッと」させられます。どんな方にも開かれた社会づくりとは言いますが、毎年人権作文を読ませていただくうえで子どもたちから新たな気づきをいただくことも多いです。今後も仙台89ERSは人権啓発活動やSDGsの活動とともに取り組んでいきます。

仙台89ERSは、仙台法務局様、宮城県人権擁護委員連合会様と、スポーツチームとしては東北初の「啓発活動連携協定」を結んでいます

ひとりで悩まず 相談してください。

みんなの人権110番

子どもの人権110番

女性の人権ホットライン

0570-003-110 0120-007-110 0570-070-810